

<講演抄録>1. 実習レポートをとおしての一考察(東日本歯学会第16回学術大会(平成10年度総会))

著者名(日)	岡橋 智恵, 澤邊 千恵子, 大山 静江, 長田 真美, 小野島 千郁子
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	17
号	1
ページ	155
発行年	1998-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00008314/

〔学会記録〕

東日本歯学会第16回学術大会

(平成10年度総会)

一般講演抄録

日時 平成10年2月21日(土)

会場 北海道歯科医師会館 第一会議室

札幌市中央区北1条東9丁目-11

1. 実習レポートをとおしての一考察

○岡橋 智恵, 澤邊千恵子, 大山 静江
長田 真美, 小野島千郁子
(北海道医療大学歯科衛生士専門学校)

〈目的〉小学校における歯科保健指導実習後、本校2年生56名全員から提出されたレポートの分析から本実習が、学生にとって「主体的学習」になっているか否かを探り、学生が、どの分野に興味・関心を示したかを明確にする。

〈方法〉①自由記述部分(所感)の記載内容を、複数の教員が読み取り一つの内容を表現している短い文に分解する。②類似した記述を集めていくつかのカテゴリーに分類する。③分類の信頼性を高めるため、教員は、相互に読み取ったカテゴリーを確認する。異なったときは協議後、その内容を共通化させる。④分類した内容が学生の興味・関心を引いたかを評価・考察する。

〈結果・考察〉所感の記述内容の総件数191件、9カテゴリーに分類された。学習の学びについて主体的学習であったと思われるものは133件、70%であり、反面、興味・関心があまり見られなかった内容は58件、30%であった。

また、記述内容として多かったものは実践指導、児童との関わり、実践記録のみの記述、児童の観察であった。このことから、本実習は学生の主体性を引き出すきっかけとなり、学びにも広がりや深まりが見られた。しかし、一方で、消極的な学生もいたことがわかった。以上の結果から体験的学習は学生の主体性を導く要素を多く含むと考える。さらに、学生が興味・関心をもてなかった原因として、①本実習の目標伝達方法の不的確、②指示の出し方、③実習後のフィードバックの不足などが考えられた。

学生が主体性を持って学ぶために、学生の自己成長の欲求やその実現に向けた努力はもちろんのこと我々が学生に学習することの意義を見い出せるように、いかに導くかが主体的学習を左右する大きな要因になると考える。

2. 歯科臨床研修の9か月をふりかえって

○小島 薫里
(北海道医療大学歯学部口腔外科学第一講座¹⁾)

昭和42年に医師の臨床研修制度が法制化されたのになら、昭和62年に卒直後歯科臨床研修が開始され、その